

## 第1回 周南市観光ビジョン策定委員会 議事録

日 時：令和6年9月30日（月）10：00～12：20

場 所：周南市役所 シビックプラットフォーム 多目的室

出席委員：朝水 宗彦 委員 難波 利光 委員 山田 みゆき 委員 小野 拓二 委員  
岡崎 麻衣 委員 宮崎 真紀子 委員 竹永 富夫 委員 組谷 明豊 委員  
有田 由貴 委員 勝屋 幸代 委員

欠席委員：なし

意見提出：井上 康 アドバイザー

事務局：文化スポーツ観光部長 観光振興課 計6名

傍聴者：なし

### ■挨拶

周南市文化スポーツ観光部 部長 河津 浩之

### ■出席者の自己紹介

各策定委員の経歴、観光振興に対する思い等を自己紹介

策定アドバイザーの紹介と挨拶、山口県の宿泊旅行の現状について報告

事務局（観光振興課）の紹介

### ■観光ビジョン策定委員会設置の説明

[概要説明]

当委員会は、周南市観光ビジョン策定委員会設置要綱に基づき設定されている。

同要綱第3条により、委員20名以内で組織（本年度は10名）

同要綱第4条により、任期は指名の日から観光ビジョンの策定が終了する日まで

同要綱第7条にワーキンググループの設置を明記しているが、今回は設置を行わず本委員会での意見を聴収、取りまとめて観光ビジョンの策定を行う。

[委員会成立]

同要綱第6条の3項により、委員の過半数の出席があることから協議会の成立を確認。

[委員長選任]

会長及び副会長の選出は、同要綱第5条第1項に基づき、互選による選任をした。

会長に山口大学経済学部観光政策学科の朝水教授及び副会長に周南公立大学福祉情報学部長兼人間健康科学部福学部長の難波教授が就任された。

### ■会長、副会長のあいさつ

朝水 宗彦教授による会長就任の挨拶

難波 利光教授による副会長就任の挨拶

## 【議事】

議事進行 朝水会長

### 議題1. 第4期周南市観光ビジョンの策定スケジュールについて概要説明

(事務局より説明) <資料「策定スケジュール」>

今回の観光ビジョンの検証では、4回の委員会を予定(各回2時間程度)

第1回(本会):第3期観光ビジョンの検証、第4期観光ビジョンの策定条件の共有

第2回(10月21日):素案作成に向けたSWOT分析及び基本施策の内容への意見出し

第3回(11月18日):第2回の意見を反映し作成した素案についての検討

第4回(12月16日):最終調整とパブリックコメントを実施するための原案作成

1~2月頃:パブリックコメントを実施し、意見の集約を行う。

3月頃:公表。冊子にて関係者に配布。市ホームページにて公開する。

○委員からのご意見等

特になし

### 議題2. 第3期周南市観光ビジョンの検証について

(事務局より説明) <資料「第3期周南市観光ビジョンの検証」>

1. 第3期周南市観光ビジョンの策定に至った経緯、背景

2. 第3期周南市観光ビジョンで目指したもの

(1) 目標指針

(2) 基本方針

(3) 重点推進施策・基本施策

3. 目標に対する個別検証

(1) 目標指標の検証

(2) 重点推進施策における取り組みの検証

(3) 基本施策における取り組みの検証

4. 検証のまとめと今後取り組んでいくべき方向性

○委員からのご意見等

#### 【委員】

財政難で新たな展開が難しい状況では、人的資源の活用や体験型観光への移行が重要。

基本施策「受入体制の充実」の課題として、「観光ボランティアガイドの高齢化による人材不足」を挙げているが、どのような検証を経てこの結論に至ったのか。

#### 【事務局】

(一財)周南観光コンベンション協会が事務局を務める「周南市観光ボランティアガイドの会」の総会において、多くのガイド会員が自らの課題として挙げている。

コンベンション協会と連携し、市広報で新規会員を募集しているが応募がなく、高齢を理由に会員を辞める方も多い。

そうした状況やボランティアガイド会員数の推移から、そのように記した。

**【委員】**

75歳以上の後期高齢者が増えていることや、定年後に再就職の道を選び、ボランティア活動を選択しないことが、観光面のみならず福祉的な課題となっている。人材不足が周南市における特殊な事情によるものか、全国的なものなのか、就労とボランティアガイド減少の関係性を分析してもらえればと考えている。

**【委員】**

年間観光客数180万人という目標値はどのようなロジックで積み上げたのか。

**【事務局】**

「第2次周南市まちづくり総合計画 後期基本計画」において180万人を目標値としている。

これは、本計画策定時の実績である平成30年165万人をベースに、宿泊施設や動物園等の観光施設のほか、各種イベントやコンベンション等における観光客数の増加をシミュレーションして算定したものである。

**【委員】**

宿泊者数や観光地域への誘客等、一つ一つのロジックを可視化するとともに、それらを連携させることで明確な目標を設定することが重要と考える。

なお、令和5年度の徳山駅前図書館の来館者は、開館以来最多となる197万人で、そのうち観光客数が50万人程度であった。

**【委員】**

鹿野地区ではキャンプ場等でワーケーション事業が展開されているが、今回触れられていない。

若い人を中山間地域に呼び込み、長期滞在を促すきっかけとして、コワーキングスペース等のWi-Fi環境の整備が有効ではないかと考える。

今後の展開はどのようになっているか。

**【事務局】**

ワーケーション事業は、県とともに国の交付金を活用して実施しているものである。

そのうちWi-Fi整備や什器導入といった環境整備事業は令和4年度から3年間を計画期間としており、令和6年度が最終年度となる。

一方、並行して展開している広告宣伝事業は令和8年度までの5年間が計画期間となっており、引き続き県と連携しながら、今後の予算やトレンドに応じて実施内容を検討することとしている。

**【委員】**

年間観光客数以外の検証結果も数字でいただきたい。

また、令和5年の年間観光客数126万人の内訳やホームページのアクセス数等、集計可

能な数字を提示してほしい。

**【事務局】**

集計可能な数字については可能な限り提示していきたい。

**【委員】**

重点推進施策「夜型観光の展開」について。

工場夜景ツアーの受け入れ体制として遊漁船に2～3人乗せて航行するというのが現状。大人数の受け入れは運航会社の事情により、不可能となっている。

遠方から訪れた工場夜景ツアー利用者について、市外の温泉地等に宿泊するといった問題があるので、宿泊や周遊を促す流れを作っていきたい。

**【委員】**

基本施策「効果的な情報発信」について。

SNSがどのようなアカウントで運用されているのか気になる。

この数年でSNSの流れが変わってきており、インフルエンサーの活用等取り入れてみてはどうか。

**【委員】**

基本施策「効果的な情報発信」に「観光キャッチコピーとロゴマークを公募し、刷新した。」とあるが、このことはどの程度認知されているのか。

また、どのようなPRをしているのか。

**【事務局】**

市誕生20周年記念を機に、それまで約10年間使用してきた「みつけて周南」に代わるキャッチコピーとロゴマークを全国公募し、市民投票を経て、市誕生20周年記念式典で広く発信した。

各種イベントでロゴマークを施したバッジの配付等を行っているが、認知度の向上を図るため、SNSでの情報発信と併せて周知に取り組み、効果的なPRを実施していきたい。

### **議題3. 第4期周南市観光ビジョンの策定イメージ（案）について**

（事務局より説明）＜資料「第4期周南市観光ビジョン 策定イメージ（案）」及び「第3次周南市まちづくり総合計画・分野別計画」＞

第4期周南市観光ビジョン 策定イメージ（案）を説明

あくまでたたき台としての素案であり、次回（第2回）の策定委員会にて意見を伺い、追加・変更・削除していくもの

○第4期周南市観光ビジョンの策定イメージ（案）

I. 観光ビジョンの位置づけ

II. 第4期周南市観光ビジョンの基本的事項

1 基本理念

- 2 目標
  - 3 計画期間
- Ⅲ. 第4期周南市観光ビジョンの体系イメージ
- Ⅳ. 第4期周南市観光ビジョンの構成イメージ
- 1 観光ビジョン策定の趣旨
  - 2 周南市の観光の現状
  - 3 観光ビジョンの目標と施策展開
  - 4 計画の推進にあたって

○委員からのご意見等

**【委員】**

第3期周南市観光ビジョンとの相違点は。

**【事務局】**

大きく異なるのは、基本方針・目標「観光コンテンツの充実」、「観光客の受入環境の充実」に「国際交流・多文化共生の推進」を加えた点。  
市内在住の外国人との多文化共生では、課で担うべき役割があることから追加した。  
また、重点推進施策をなくし、全てを基本施策として包括的に展開することとしている。

**【委員】**

目標指標である年間観光客数について、第3期観光ビジョンでは180万人としていたところ、今回150万人としている。  
令和元年度の165万人を下回る目標値は妥当か。

**【事務局】**

コロナ禍の影響により、令和2年の観光客数は100万人まで落ち込んだ。  
観光客数は回復傾向にあるが、コロナ禍で閉鎖した施設もあり、かつての水準には至っていない。  
そうした状況を勘案したうえで、現在策定中の上位計画「第3次周南市まちづくり総合計画 前期基本計画」においても目標値を150万人と設定しており、妥当な数字と捉えている。

**【委員】**

第3期観光ビジョンの目標値である180万人は妥当であったか。

**【事務局】**

前述のとおり、観光ビジョン策定直後に発生したコロナ禍の影響により、施設の閉鎖や民泊等受け入れ先の減少が余儀なくされた。  
現状においては、150万人の目標値は適正であると捉えている。

## その他. 自由意見

○委員からのご意見等

### 【委員】

身近な外国人から「市の魅力が伝わってこない」、「おいしい飲食店の情報や、貸切風呂の情報が不足している」との意見があった。

海外向けの情報発信にも取り組んでいただきたい。

市民目線では、新たなオープンした徳山デッキには無料駐車場がなく、市街地の滞在時間に影響しているのではないかと考えている。

学生からはプリントシール機を求める声もあり、活性化に向けた工夫が必要ではないか

### 【委員】

徳山デッキは観光資源として第4期観光ビジョンに明記してよいのではないか。

### 【事務局】

中心市街地の活性化や街づくりに資するものであり、宿泊機能や賑わいの創出のほか、観光の視点において連携すべき要素はあると考えている。

「観光施設」という括り方はできないが、徳山駅前賑わい交流施設とともに、観光客が訪れる市街地エリアに立地しており、情報発信が必要であると認識している。

観光ビジョンへの掲載については今後策定委員会を通じて検討していく。

### 【委員】

市内の観光資源がどこにどれだけあるのかを可視化してほしい。

周南観光コンベンション協会、鹿野、温泉の取り組み等が挙げられたが、市内にどのような観光資源があるか、具体的に示して欲しい。

今後、「〇〇の事業はやる」、「〇〇の事業はやらない」といった取捨選択についての議論も進めていく必要がある。

### 【事務局】

いただいたご意見や疑問点等をもとに、議論の材料となる数字や内容、具体的な観光資源等を提示できるよう、次回の策定委員会に向けて準備を進めていく。

### 【委員】

特産品づくりに取り組む事業者があるものの、個々の活動には限界がある。

第4期観光ビジョン策定と併せて地産地消推進協議会や事業者と連携を図る等し、大きな成功に結び付けられればと感じる。

### 【事務局】

上位計画である「第3次まちづくり総合計画 前期基本計画」で「施策の束」と表現したように、庁内各課の様々な施策を絡めて推進していく。

観光分野における個別計画である観光ビジョンについても、各課が策定した個別計画等と照らして策定できればと考えている。

■まとめ

【朝水会長】

コロナ禍では、民泊や体験型修学旅行の需要が増した一方で、受け入れ側は高齢化等の進展により減少する等、需給のミスマッチが生じることとなった。

また、情報化が進んだことにより発信方法を工夫する必要があるが出てきた。

山口市の瑠璃光寺を例に挙げると、「70年に一回の改装工事で見ることが出来ない」とするか、「70年に一回しかない改装工事を見ることが出来る」とプロモーションするかで、大きく印象が異なる。

目標値をどう定めるかは難しいところであるが、こうしたことも踏まえつつ、今後の会議を通じて取り組んでいければと考えている。

■次回の策定委員会について

日時：令和6年10月21日（月）10：00～12：00

場所：周南市役所 シビックプラットフォーム 交流室6